

サシモノ深須入道俄ニ心變シテ、哀レ此君ヲ隱シ奉リテ、義兵ヲ舉バヤト思ヒケレドモ、跡ニ續ケル松井ガ所存知ガタカリケル間、事ノ漏レ易クシテ、道ノ成難カラシム事ヲ憚テ、默止ケルコソウタテケレ、俄ノ事ニテ綱代ノ興ダニ無リケレバ、張輿ノ怪シゲナルニ扶載セ進ラセテ、先ヅ南都ノ内山ヘ入奉ル、○中十月二日、六波羅北方常葉駿河守範貞三千餘騎ニテ路ヲ警固仕テ、主上ヲ宇治平等院ヘナシ奉ル、○中翌日龍駕ヲ廻シテ、六波羅ヘナシ進ラセントシケルヲ、前々臨幸ノ儀式ナラデハ、還幸成マジキ由ヲ強テ仰出サレケル間、力ナク鳳輦ヲ用意シ、袞衣ヲ調進シケル間、三日迄平等院ニ御逗留有テゾ六波羅ヘハ入セ給ヒケル、日來ノ行幸ニ事替テ、鳳輦ハ數萬ノ武士ニ打圍レ、月卿雲客ハ怪シゲナル籠輿傳馬ニ扶乘ラレテ、七條ヲ東ヘ、河原ヲ上リニ六波羅ヘト急セ給ヘバ、見ル人涙ヲ流シ、聞人心ヲ傷シム、

〔皇年代略記後醍醐〕元弘二年三月七日、奉移隱岐國、四十五、入道相模守、平高時、中沙汰之、

〔光嚴院御記〕元弘二年三月七日丙子、今日巳刻許先帝令進發給、自六波羅出御、用御車、御車寄公重

卿、可辭宮司參云々、召次御牛飼等、自崇明門院、○後字多皇女、謀子内親王、可被沙汰進旨武家申之、御牛公宗卿

進之、公宗卿不扈從、自別路參向鳥羽、行房朝臣、忠顯等供奉、但自路頭被止參會鳥羽云々、先帝御裝

○裝下恐、御直衣下結云々、於鳥羽棧敷、口供御破子之後、有數刻出御、今度御輿四方輿、被卷三方簾

云云、女房三人、口輿武士數百騎圍前後左右路頭、十四日、於出雲國、可爲御乘船云々、入御鳥羽事、

承久之例云々、但今度事儀相替歟、然而有武家別申入旨之間、不及被仰子細、寢殿被相憚之間、於棧

敷殿儲破子之旨、公宗卿申之、

〔増鏡十六、久米のさら山〕元弘二年の春にもなりぬ、○中終に隱岐國へ移したてまつるべしとて、やよ

ひの始の七日、都を出させ給、今はと聞召御心まどひどもいへばさらなり、○中卯の時ばかりに

出させ給、あじろの御車に、御前どもなどは、故院○後の御世より仕うまつりなれにしものども